

平成 3 1 年度大分県学力定着状況調査結果総括（佐伯市・小学校）

国 語 <結果概況> ○偏差値は、知識、活用ともに 5 0 を上回り、正答率は目標値（知識 7 2 . 4、活用 5 7 . 0）を上回った。 ○領域別では、「読むこと」は、全県の数値を上回ったが、その他の 3 領域は下回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に県の数値と比較すると、「漢字を書く」「ポスターを作る」「作文」の問題で正答率に 3 ポイント以上の開きがある。「作文」については、無回答率が 1 2 . 6 % であったことから、指定された条件で、目的や必要に応じた記述をする指導を、今後も継続していく必要がある。また、説明文の内容を読み取る問題 3 問のうち 2 問で目標値に及ばなかったことから、文章の内容を的確に読み取るための指導が必要である。		知識	活用
	偏差値	5 1 . 3 (5 2 . 1)	5 1 . 2 (5 1 . 6)
	正答率	7 7 . 3 (7 8 . 9)	6 3 . 3 (6 4 . 5)
	達成率	6 8 . 5 (7 2 . 3)	6 6 . 7 (6 7 . 6)
		() は県の数値	
算 数 <結果概況> ○偏差値は、知識、活用ともに 5 0 を上回り、正答率は目標値（知識 6 9 . 6、活用 5 2 . 1）を上回った。 ○領域別では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の 3 領域で全県の数値を上回ったが、「図形」は、下回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に見ると、「億と兆・がい数の表し方」「小数」「いろいろな形」「折れ線グラフと表」で県の正答率を下回った。特に、「地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って、2 つの道のりが等しくなる理由を説明する」「折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する」等の活用問題の正答率が低かった。さまざまな算数的資料の読み取りについての指導を行うとともに、「方法」や「手順」、「理由」や「考えの筋道」等を算数で学習した用語を使って説明させたり記述させたりする指導に日常的に取り組む必要がある。		知識	活用
	偏差値	5 2 . 5 (5 2 . 2)	5 2 . 1 (5 2 . 1)
	正答率	7 4 . 9 (7 4 . 4)	5 4 . 1 (5 4 . 1)
	達成率	6 9 . 0 (6 7 . 3)	5 5 . 4 (5 7 . 0)
		() は県の数値	
理 科 <結果概況> ○偏差値は、知識、活用ともに 5 0 を上回り、正答率も目標値（知識 7 0 . 8、活用 5 3 . 6）を上回った。 ○領域別では、「物質・エネルギー」「生命・地球」ともに、全県の数値を下回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に見ると、「動物のからだのつくりと運動」「月と星」「物の体積と温度」の内容で、県の正答率を 2 ポイント以上下回った。「ストーブであたためられた空気の動き方」を問う問題では目標値を 1 7 . 7 ポイントも下回り、日常生活や生活体験と関連づけた理科の知識を習得させる必要があることがわかる。日常の事象が起こる理由についての予想をもとに実験を行い、結果と事象を関係付けながら説明させる指導を、今後も繰り返し行う必要がある。		知識	活用
	偏差値	5 1 . 7 (5 2 . 2)	5 1 . 4 (5 1 . 3)
	正答率	7 4 . 0 (7 4 . 7)	5 5 . 3 (5 5 . 1)
	達成率	7 1 . 3 (7 1 . 1)	5 4 . 5 (5 5 . 5)
		() は県の数値	

平成 3 1 年度大分県学力定着状況調査結果総括（佐伯市・中学校）

国語

<結果概況>

○偏差値は、知識、活用ともに 50 を上回り、正答率も目標値（知識 71.5、活用 65.9）を上回った。

○領域別では、「読むこと」のみ全県の正答率を下回ったが、その他の 3 領域は上回った。

	知識	活用
偏差値	51.9 (51.8)	50.6 (50.5)
正答率	71.6 (71.5)	66.2 (65.9)
達成率	69.8 (68.8)	63.4 (61.6)

() は県の数値

<課題と対策>

○問題の内容別に見ると、「漢字を書く」「説明文の内容を読み取る」「文学作品の内容を読み取る」で県の正答率を下回った。同音異義語などに注意しながら漢字を書く機会を意図的・計画的に設定し、習得を目指すとともに、生徒自身が目的に応じて文章を読み、内容を整理したり、要旨を捉えたりすることができるような活動を充実させることが必要である

社会

<結果概況>

○偏差値は、知識、活用ともに 50 を上回り、正答率も目標値（知識 66.4、活用 49.2）を大きく上回った。

○領域別では、全ての領域で県の正答率を上回った。

	知識	活用
偏差値	51.8 (50.5)	51.0 (50.3)
正答率	72.9 (70.3)	55.8 (53.5)
達成率	68.0 (63.1)	66.1 (62.1)

() は県の数値

<課題と対策>

○問題の内容別に見ると、「古墳時代まで」のみがわずかに県の正答率に及ばなかったが、その他の 5 つは上回った。また、昨年度に比べて、正答率 50 パーセント以下の層が少なくなっており、日常的な指導の成果が表れていると言える。今後も、これまでの指導を継続する必要がある。

数学

○偏差値は、知識は 50 を上回ったが、活用は 50 を下回った。正答率は、知識は目標値（58.0）を上回ったが、活用は目標値（37.9）を下回った。

○領域別では、「関数」のみ県の正答率を下回ったが、その他の 3 領域は上回った。

	知識	活用
偏差値	51.1 (50.7)	49.7 (50.6)
正答率	62.6 (61.7)	34.5 (36.8)
達成率	57.1 (57.2)	39.9 (43.8)

() は県の数値

<課題と対策>

○問題の内容別に見ると、「比例・反比例」「文字式」で県の正答率を下回った。無回答率が 20 % を超えた問題が 3 問あるなど、課題を抱えている生徒がかなりいることがわかる。基礎的な内容の定着を図りながら、事実や理由、方法などの説明をする活動を日常的に行う必要がある。

理科

○偏差値は、知識、活用ともに 50 を上回り、正答率も目標値（知識 58.1、活用 55.6）を上回った。

○領域別では、「エネルギー」「粒子」では県の正答率を上回ったが、他の 2 領域では下回った。

	知識	活用
偏差値	51.0 (50.9)	50.9 (50.5)
正答率	60.9 (60.7)	63.0 (61.9)
達成率	59.4 (59.1)	66.6 (67.6)

() は県の数値

<課題と対策>

○問題の内容別に見ると、全 11 のうち 8 つの内容で県の正答率を上回った。記述式問題の誤答率が高いことから、観察や実験後の情報の整理・分析についての指導を図ることや、因果関係や相関関係等について説明する活動を充実させることが必要である。

英語

○偏差値は、知識、活用ともに 50 を上回った。正答率は、活用は目標値（46.0）を上回ったが、知識は目標値（66.2）を下回った。

○領域別では、「聞くこと」は県の正答率を下回ったが、「読むこと」「書くこと」は上回った。

	知識	活用
偏差値	50.7 (50.3)	51.0 (50.3)
正答率	65.8 (64.8)	47.6 (45.8)
達成率	51.7 (50.3)	47.4 (46.9)

() は県の数値

<課題と対策>

○問題の内容別に見ると、「リスニング（内容理解）」のみ、県の正答率を下回ったが、他の 8 つは上回り、指導の成果が表れていると言える。昨年度に比べ、上位層はやや増えているが分散傾向は依然として強いことから、基本的な語彙や場面に応じた応答の仕方について、目的や場面、状況を設定した言語活動の中で、様々なやり取りを通して学べるようにすることが必要である。